

品目名 さくら「啓翁桜」		切り枝 R10 目標(R5年比)		
		作付面積(ha)	生産量(千本)	産出額(億円)
		280(101%)	4,800(108%)	11(122%)
目標設定の考え方		○新規生産者の確保、省力化技術の導入により、作付面積・生産量はやや増加、消費PR活動で認知度・単価向上し、産出額は増加		
振興方向		○新規生産者の確保・育成、省力化技術の導入による面積の拡大 ○消費PR活動による知名度の向上		
生産方式		【露地】切り枝生産は露地栽培 【施設】切り枝促成は施設栽培 【方式】苗植付け、又は、直挿し 12月～3月出荷		
現 状	生産			
	〔産地〕	・主な産地 西川町、東根市、酒田市		
	〔産出額〕	・切り枝の産出額 9億円(全国第8位：生産農業所得統計令和5年産)		
	〔品質〕	・県内産地の品質格差は年々縮小		
	〔数量〕	・切り枝出荷量 4,460千本、作付面積 277ha、うち、さくら「啓翁桜」出荷量 1,756千本、作付面積 262ha(県園芸大国推進課調べ)		
	〔担い手〕	・専作経営は少なく、ほとんどが複合経営の一品目として導入		
	〔生産〕	・冬期間の有望品目として新規生産者が増加		
	〔経営〕	・環状はく皮等の花芽着生処理や施肥管理により、計画的な切り枝生産を実施		
	〔流通〕	・植物成長調整剤を活用した省力的栽培技術の実証を実施		
	〔販売〕	・幼果菌核病、カイガラムシ類の発生は防除の徹底により、減少傾向		
	〔流通販売の状況〕	・近年の温暖化により、12月の出荷開始時期が遅延傾向		
	〔販 売〕	・需要の高い12月と3月に合わせた計画出荷への取組み		
課 題 と 対 応 策	課題	対応策		
	①出荷量の増加	①研修会の開催による新規生産者の掘り起こし ①毎年安定数量出荷が可能となる既存生産者の面積拡大と生産性向上を推進 ①3月の需要期に出荷量を増やすため、収穫枝の低温保管技術の導入を推進 ①植物成長調整剤を活用した花芽着生処理等、省力栽培技術を推進		
	②12月出荷の数量・品質の安定	②温暖化に対応した適切な低温遭遇方法の検討と普及 ②花芽着生が良く、新梢長が短い、高品質な枝を生産するための栽培技術の改善と普及		
	③有利販売対策	③促成室入室後の事前情報により、前売り割合を高める取組みを推進		
	④消費拡大	④知名度向上に向けたPR活動の実施		